



家族がつなぐ《方言》

それぞれの地域の中で使われている言葉が《方言》です。特に三世代、四世代の家族では、生まれた子どもは、おじいちゃんやおばあちゃんの言葉を真似て覚えていきます。こうして《方言》が伝承されます。そんな身近な、世代に繋がる《方言》について取り上げました。



▲茂原市山崎に4世代で住む鳩川さん一家

○あじした?

たとえば「あじした」は「どうしたの」と相手に問いかける意味で使う茂原の言葉です。

A「おおこええ」(ああ疲れた)
B「にしゃ、やせたっぺ、あじした?」(お前痩せただろう。どうした?)

A「あんが、あんどんねえさ」(いや、なんともないさ)

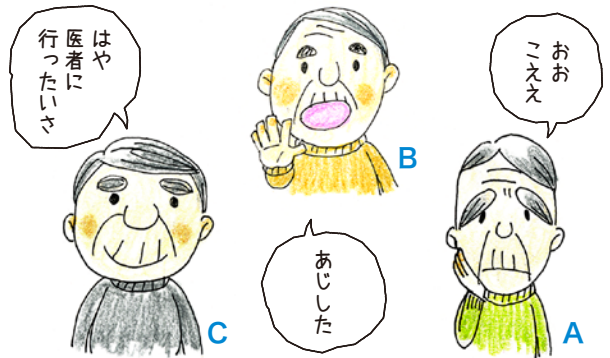
B「そうけえ」(そうかい)

C「はや、医者に行ったいさ」(早く医者に行ったらどう?)

A「そっじゃ、そうすべ」(そうだな、そうするよ)

○お里が知れる一言

私たちは共通語だと思っておりますが、実は、茂原の方言であるという言葉があります。「それ、かじっちゃだめよ」あなたは次のイラストのどちらを想像しますか?



「かじる」は共通語では食べる時に使う言葉です。ですから、かゆいところは「掻く」のです。

○まだまだあります

- ・「わりった」(ごめん)
- ・「がんだ飯」(芯のある焼きそこないの飯)
- ・「すなっぱらい」(行事の後の飲み会) といった方言もあります。

「おめ・にし」(あなた)の意味で、「おめ」は対等か目上の人、「にし」は目下の人に使います。

また「うっちゃる」という言葉は(捨てる)という意味で使う場合が多いのですが、小さい頃、いつまでも泣いていると、おじいさんやおばあさんに「うっちゃっつけ」と言われたことありませんか?



その時は(放っておきなさい)という意味で、かまわないうでそっとしておく、と言う場合に使われているのです。



○おわりに

また、今ではあまり見かけなくなりましたが、代々続く旧家には「じょうぼ」があります。それは、公道から家の敷地内へ入って行って、家の玄関へ続いている道のことです。そして玄関を「ほうじょう(方丈)」と言います。

茂原では蝮を「くつちやみ」と言います。平安時代に都で「クチハメ」という言葉が使われていたといわれており、方言には日本の歴史にも繋がるような不思議な魅力があります。

《方言》はほんこん(本当)に面白い! 方言を市民みんなで使って、会話を交わしながら大事にしたいですね。